

第9章

本事業に対する評価等

1 管理官報告

第49回「東南アジア青年の船」

事業

管理官

牧野 将宏



第49回「東南アジア青年の船」事業は、2026年1月15日の東京での参集をもって始まり、2月16日のバンコクでの解散をもって終了した。事業の日程等については、本報告書の該当部分を参照していただきたいが、寄港地となったシンガポール及びタイを始めとする各国政府及び各国同窓会組織、ナショナル・リーダー、ファシリテーター、OBSC代表者等を始めとする多くの関係者の尽力により、当初の予定通り無事に事業を終えることができた。関係各位の献身に改めて感謝したい。

第49回「東南アジア青年の船」事業の成果は、今後、プログラムに参加した青年達が今後の人生をどのように生きるかにより測られるものであり、現時点で管理官の立場で評価を述べることはできないが、第49回「東南アジア青年の船」事業には、他の回と比べていくつか特徴的な点が存在していた。以下では、各項目について簡単に述べたい。

1. 参加国について

(1) 東ティモールの正式参加について

2025年10月のASEANサミットをもって東ティモールがASEANの正式加盟国となった。これに伴い、今回から、東ティモールが本事業に正規のメンバーとして参加することとなった(第48回にはオブザーバーとして参加)。

なお、各国における参加青年の募集等が始まった時点ではオブザーバーであったことから、第49回の参加者数は他のASEAN各国よりも少なくなっている。

(2) ミャンマーについて

第47回及び第48回に続き、諸般の情勢に鑑み、ミャンマーの参加を認めないこととした。ミャンマーの参加が再開できる日が来ることを心待ちにしている。

2. スケジュール及び航路について

(1) スケジュールについて

第49回「東南アジア青年の船」事業は、予算の制約から、日本においてクルーズ需要が少ない1月から2月にかけて実施された。従来、本事業は10～12月頃に実施されており、年明けに実施されるのは49回目にして初めてとな

る。この際、2026年は、2月17日が旧正月に当たり、また、2月18日からラマダンが始まることとなっており、これらを避ける形で事業日程が設定された。

各国における会計年度の開始時期との関係等により、一部の参加国政府や青年等には負担をかける形となったが、大きなトラブルが生じることはなかった。

(2) 航路について

(1)と同様、予算の制約から、東京から始めた航海をタイで終えることとなった(参加青年等はバンコクから空路で帰国。使用船舶は世界青年の船としてバンコクから東京まで航海。。「東南アジア青年の船」事業と「世界青年の船」事業を連続して実施するのは、2002年以来のこととなる(2002年はシンガポールで引き継ぎ)。

青年達の帰国等がスムーズにいくかが懸念されたが、タイ政府の協力により円滑に事業を終えることができた。

3. カンボジア代表団のシンガポールでの離脱

上記の通り、第49回「東南アジア青年の船」事業はバンコクでプログラムを終えたが、カンボジア青年等については、同国政府の方針により、シンガポールにおける見送り式をもってプログラムから離脱し、同地から飛行機で帰国した。

なお、キャビンの部屋割りやホームステイ(日本国内地方プログラム、シンガポール)のマッチング等において、カンボジア青年を他の国の参加者と区別することはなかった。

4. 「にっぽん丸」の引退

第49回「東南アジア青年の船」事業は、商船三井クルーズ株式会社の「にっぽん丸(3代目)」を使用して実施された。「にっぽん丸(3代目)」は1990年の就航以降、一部の年を除き、継続的に本事業に使用されてきたが、同船については、2026年5月の引退が発表されており、今回が同船を用いて実施される28回目にして最後の「東南アジア青年の船」事業となった。

各寄港地には「にっぽん丸(3代目)」に別れを告げるため、各国から世代を越えて多くの関係者が訪れ、歴史の重みと関係者の愛着を感じた。

なお、内閣府においては、現在、「にっぽん丸(3代目)」引退後の「東南アジア青年の船」事業の在り方について、検討を行っているところであるが、プログラムや事業の形がどのように変わることになっても、「にっぽん丸(3代目)」が、海を越え、時代を越えて運んできたものを後世に伝えることができるように検討を進めていきたい。

2 船長挨拶

につぼん丸 船長
関谷 雅



第49回「東南アジア青年の船」事業に参加された皆様、また本事業に携わりました管理部員の皆様、支援者の皆様。本事業の成功、誠におめでとうございます。

私もにつぼん丸の船長として船舶運航管理を担い、何事もなく航海を終えたことに安堵するとともに、皆様の安全運航への御協力、感謝申し上げます。

さて、東京における緊張に包まれた出航式に始まり、シンガポールまでの8日間の航海は天候にも恵まれ、各国のナショナル・プレゼンテーションをはじめとする各種プログラムも円滑に進み、この間に皆様の仲もぐっと深まったのではないのでしょうか。また我々、につぼん丸側もこの航海の間に星座教室、船長講話と少しばかりではありますがプログラムに協力させていただきました。特に船長講話においては貴重なお時間をいただいた中で、私自身の経験から得たものをお伝えしてみました。嬉しいことに関心を示してくれる姿が見て取れ、お伝えしたうちの幾らかが彼らに響いてくれたのであれば幸いです。

最初の目的地であるシンガポールでは、他クルーズ船が毎日のように出入りする現地の事情もあり着岸位置が変わりましたが、皆様のスケジュールに迷惑がかかるこ

となく終わりました。また出航時には下船したカンボジアの青年団といつまでも手を振り合う姿をみると、短い間に培った絆の深さに感動を覚えました。続くバンコクへはチャオプラヤ川を約3時間遡上し、港へと至りましたが、幅の狭い川を航行するには現地水先人の協力なしではまず出来ないだろうと感心したものです。無事、着岸をした際には皆様を送り届けることが出来、本当にほっとしました。

ところで、皆様が乗船されていたにつぼん丸は、160名を超える乗組員がそれぞれの業務を行う事で運航されています。これは社会生活の構築と何ら変わりません。参加青年の皆様は、ゆくゆくは大きな社会に出て活躍されると信じております。このにつぼん丸の船上で培った経験や築いた繋がりを実社会に生かし、日本とASEAN地域の関係のさらなる発展を期待いたします。

最後に、につぼん丸が長きにわたり本事業に貢献できたことにつきまして、誇りに思うとともに感謝申し上げます。につぼん丸は今年退役しますが、青年の皆様、この先の将来、日本からまた世界から同じように若者たちが船で皆様の国を訪れた際には、皆様が受けたおもてなしと同等に、あるいはそれ以上に温かく迎えていただき、協力の手を差し伸べてください。この受け継がれる絆も各国を代表し本事業に参加した青年たちの義務であり宝であり、また誇りでしょう。

ありがとうございました。

3 参加者による事業評価

参加者に対して事業終了時に事業評価アンケートを実施した。集計結果は次のとおり。

注：対象は、ナショナル・リーダー11名、参加青年168名。

Q14及びQ15(タイ)は、カンボジアのナショナル・リーダー及び参加青年を除く。

値は小数第一位で四捨五入されている。

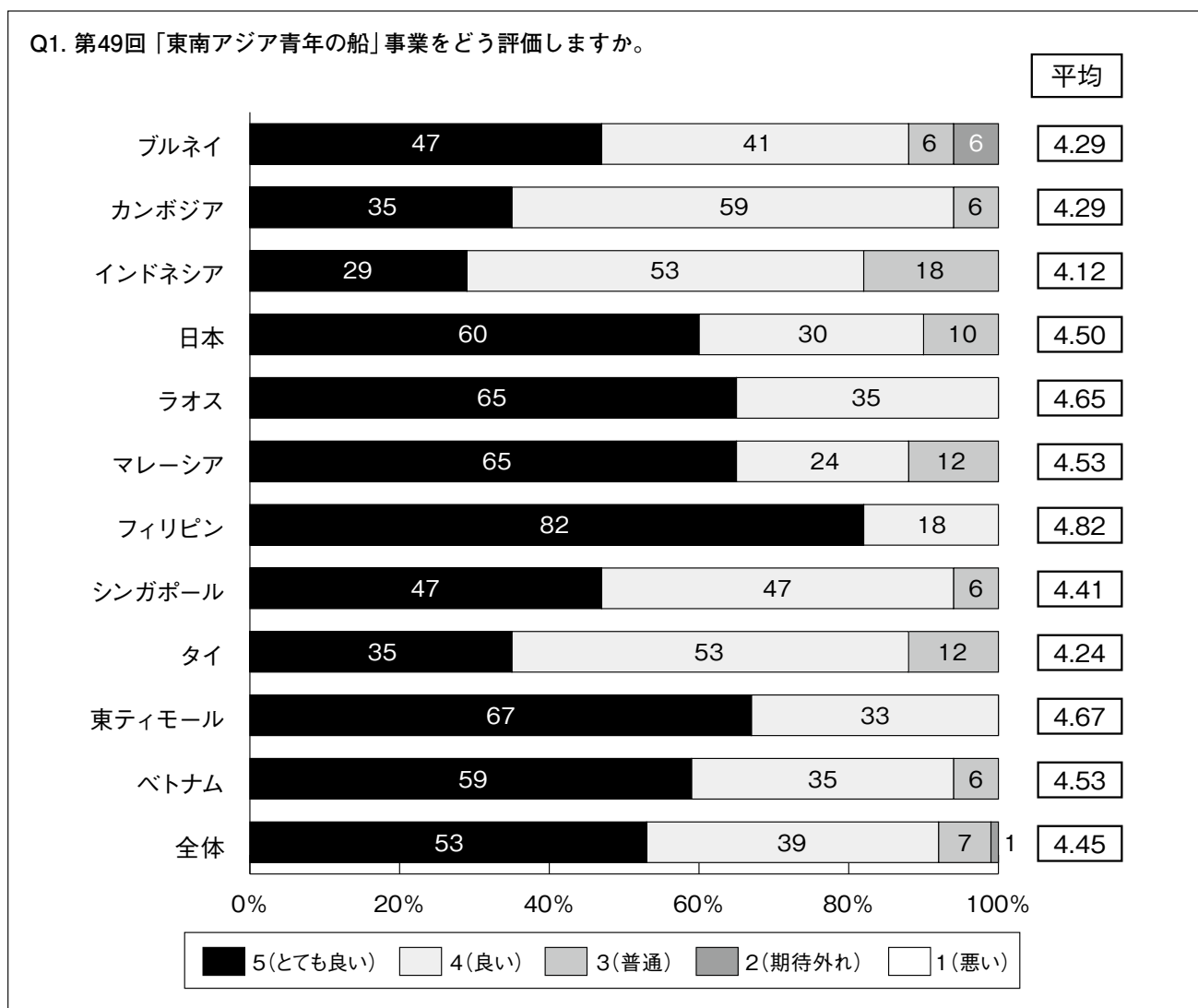
統計処理上、合計が100%にならないことがある。

【事業全体】

事業全体に関しては、全体平均は4.45で、92%の参加者が4以上(良い、とても良い)と評価した。

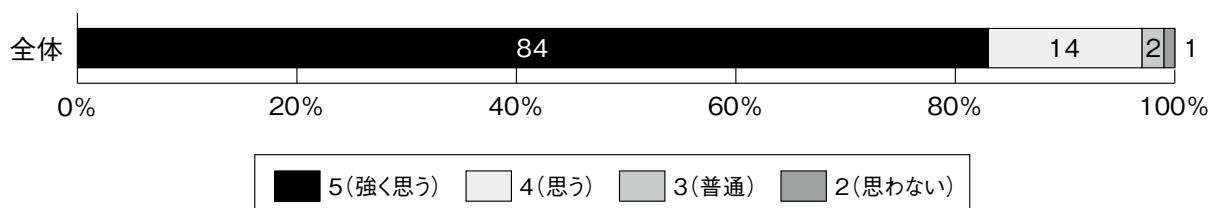
この事業が各国からの参加者間の「相互理解を促進すること」及び「友情を築くこと」に貢献していると思うかとの問いに対し、4以上(思う、強く思う)をつけた参加者はそれぞれ98%、99%にのぼる。

また、この事業が自己の能力向上にどのように役立つと考えるかとの問いに対して、参加者の84~86%が、「異文化への対応力」、「集団生活への適応力(協調性と柔軟性)」、「責任感」、「自己管理力」、「ディスカッション力」、「国内外の友人・ネットワーク作り」の向上に対して、4以上(大きな効果がある、著しく大きな効果がある)の評価をした。



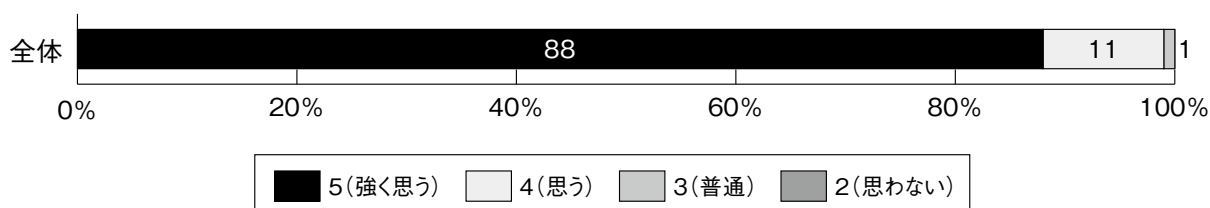
Q2. この事業が、あなたと各国の人々との相互理解を促進することには貢献していると思いますか。

平均: 4.81



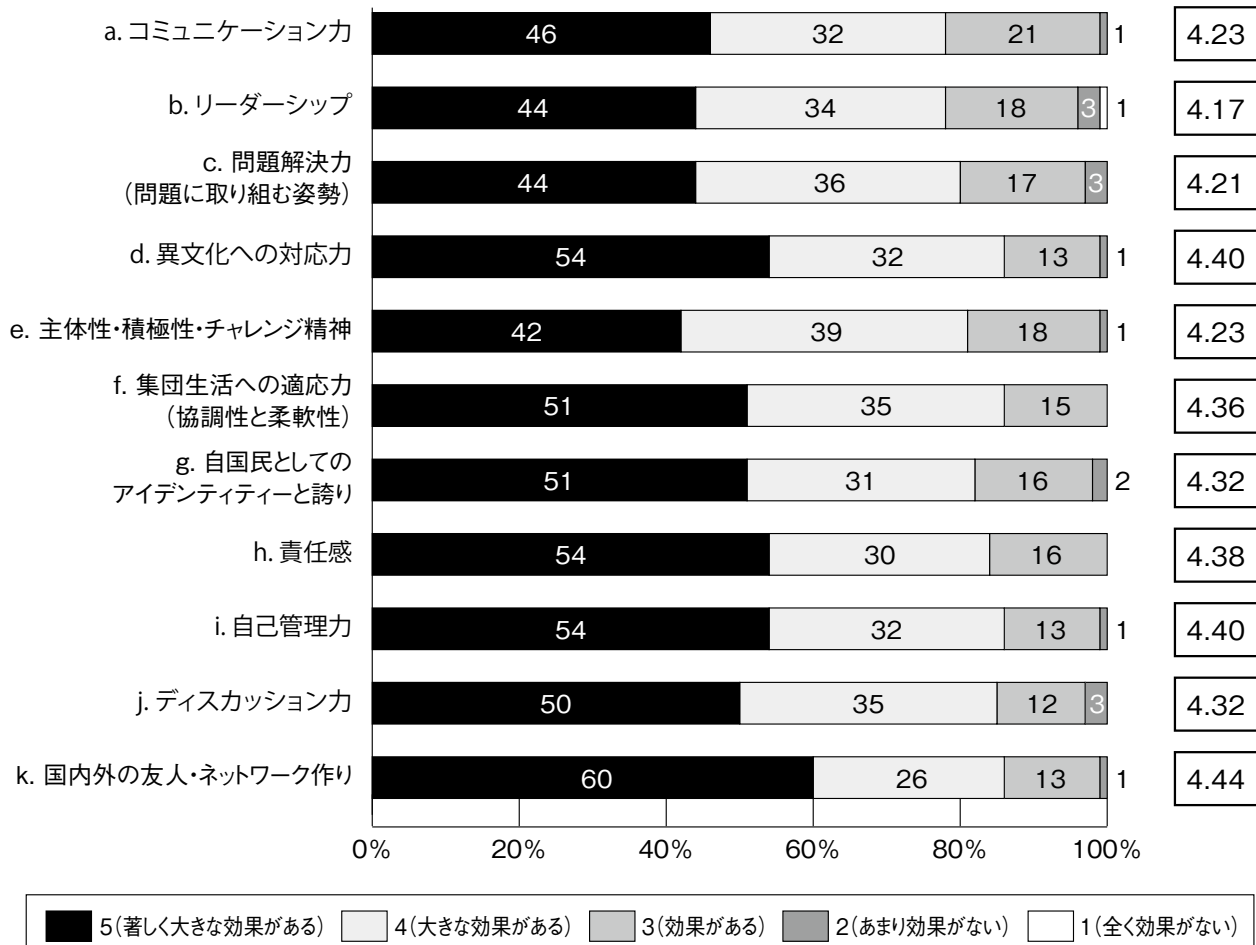
Q3. この事業が、あなたと各国の人々との友情を築くことに貢献していると思いますか。

平均: 4.88



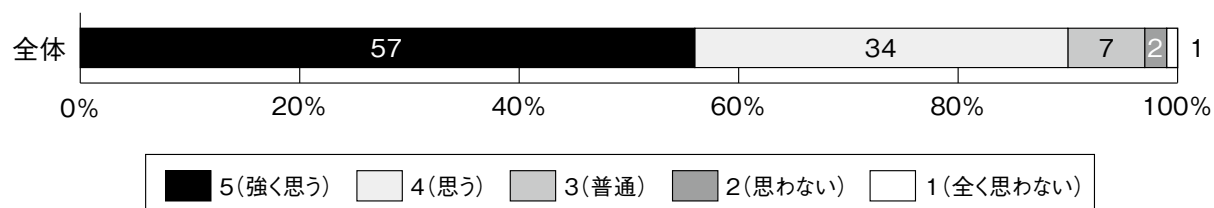
Q4. この事業が、自己の能力向上にどのように役立つと考えますか。それぞれの項目について回答してください。

平均



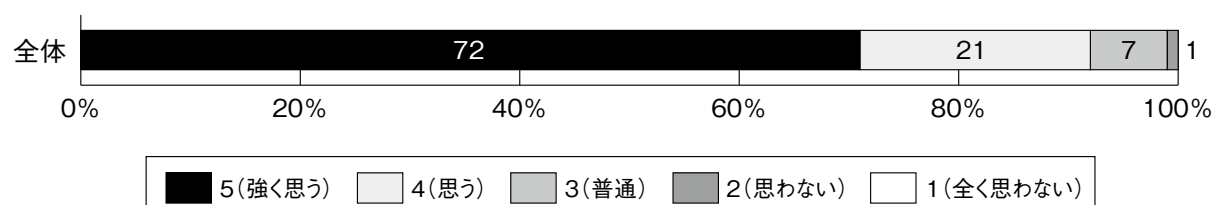
Q5. この事業への参加は、あなたのキャリア（職業）における将来性を高めると思いますか。

平均: 4.44



Q6. この事業への参加は、社会貢献活動へ参加したいという意欲を高めると思いますか。

平均: 4.63



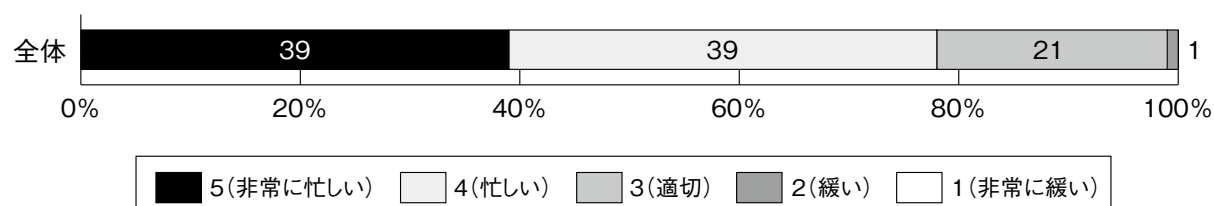
【船内活動】

日程について、21%の参加者が3（適切）と評価し、78%が4以上（忙しい、非常に忙しい）とした。

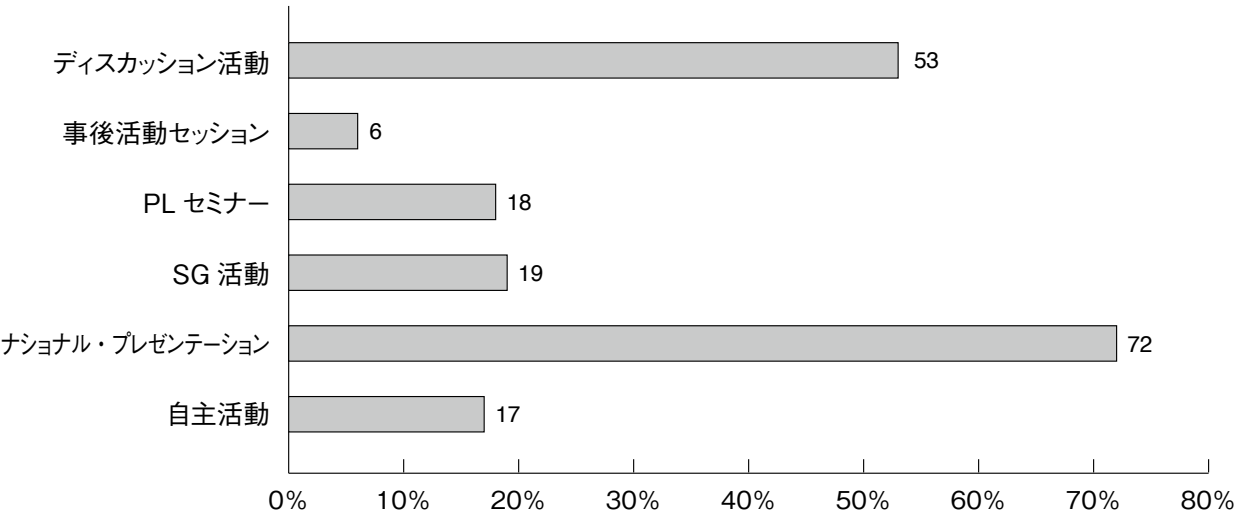
船内活動について、「最も意義のある船内活動」として参加者が選択したのは、多い順に、ナショナル・プレゼンテーション（72%）、ディスカッション活動（53%）、となった。一方、それぞれの船内活動の内容についての満足度は、全体平均の高い順に、ナショナル・プレゼンテーション（4.72）、ディスカッション活動（4.34）、となった。

Q7. 船内活動の日程についてどう思いますか。

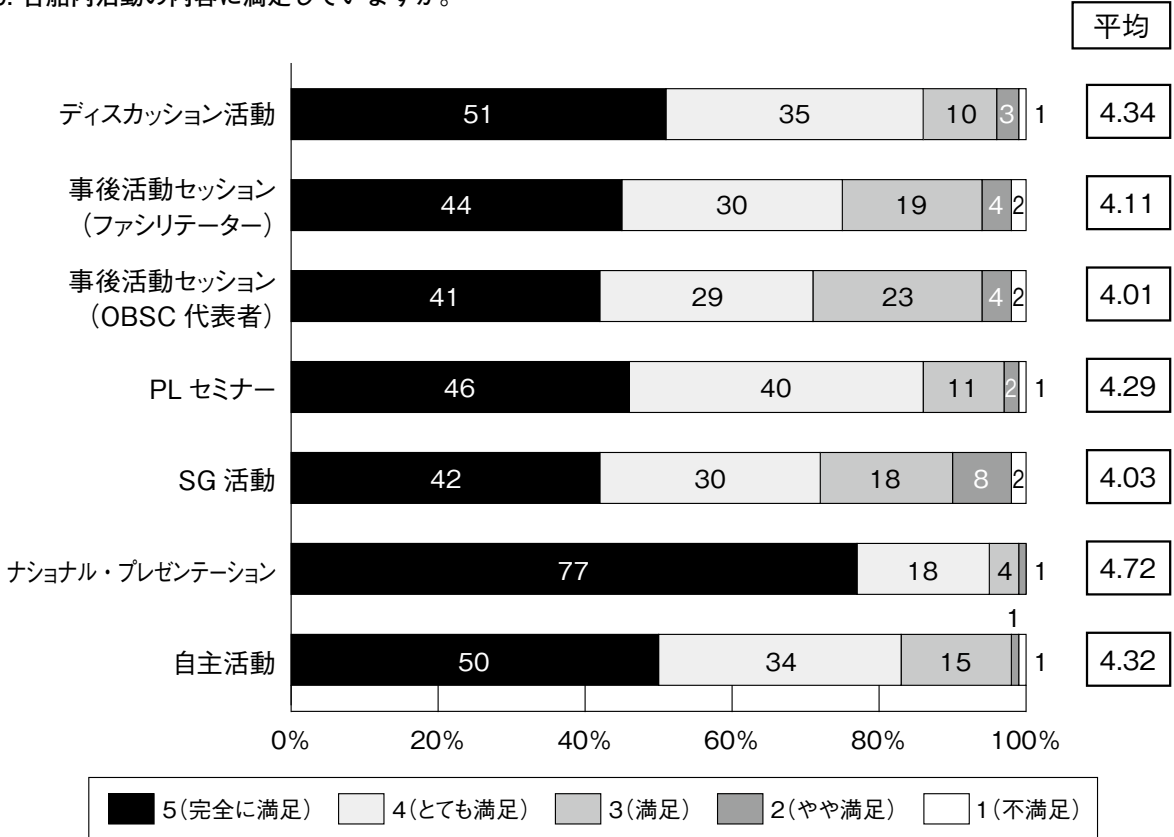
平均: 4.16



Q8. 最も意義のある船内活動は何ですか。（1つ又は2つまで選択可）

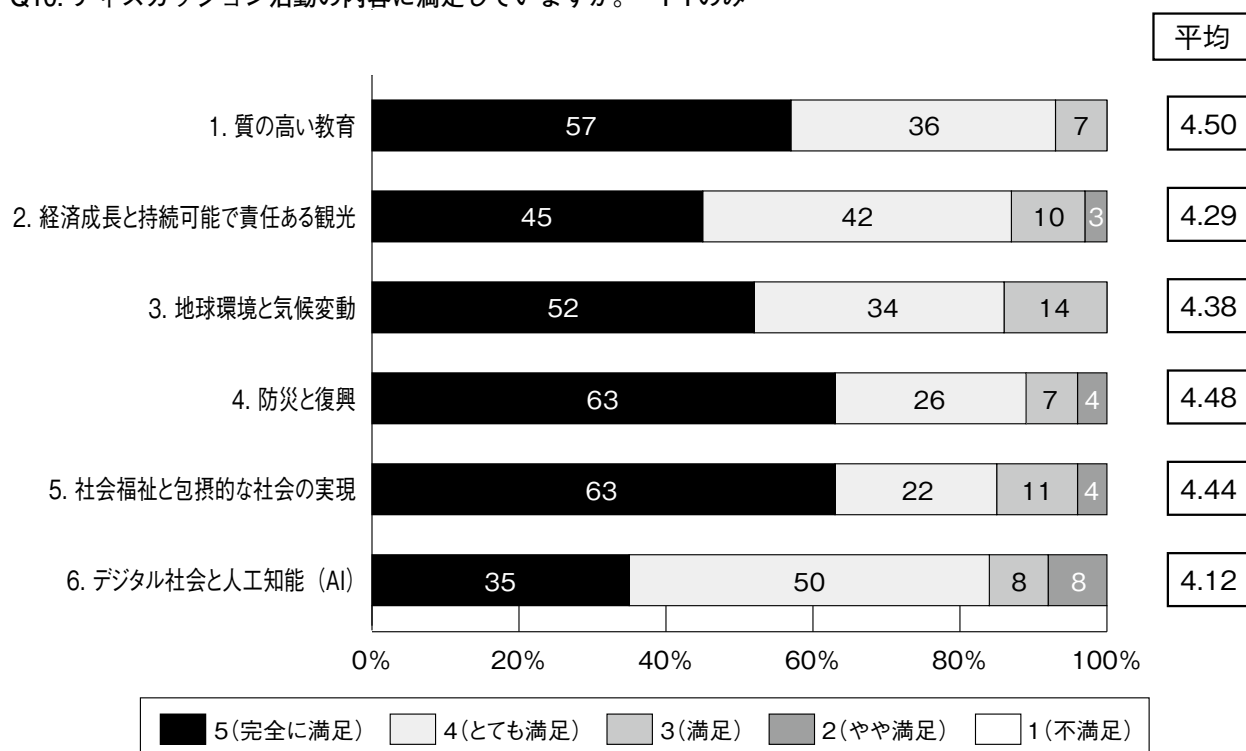


Q9. 各船内活動の内容に満足していますか。

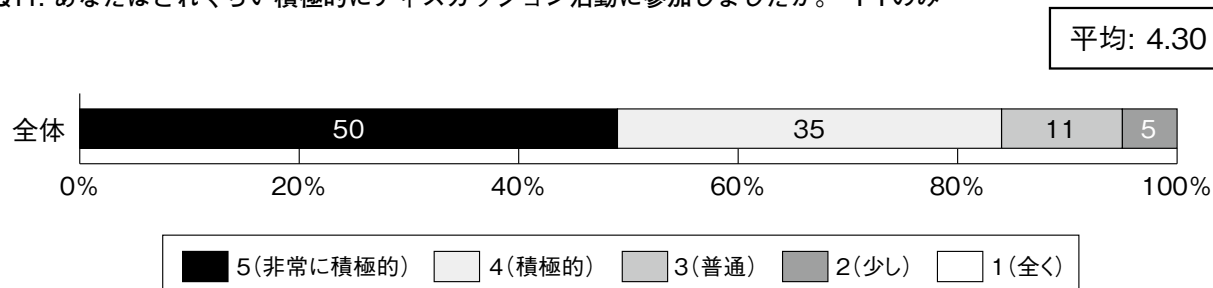


[ディスカッション活動]

Q10. ディスカッション活動の内容に満足していますか。 *PYのみ



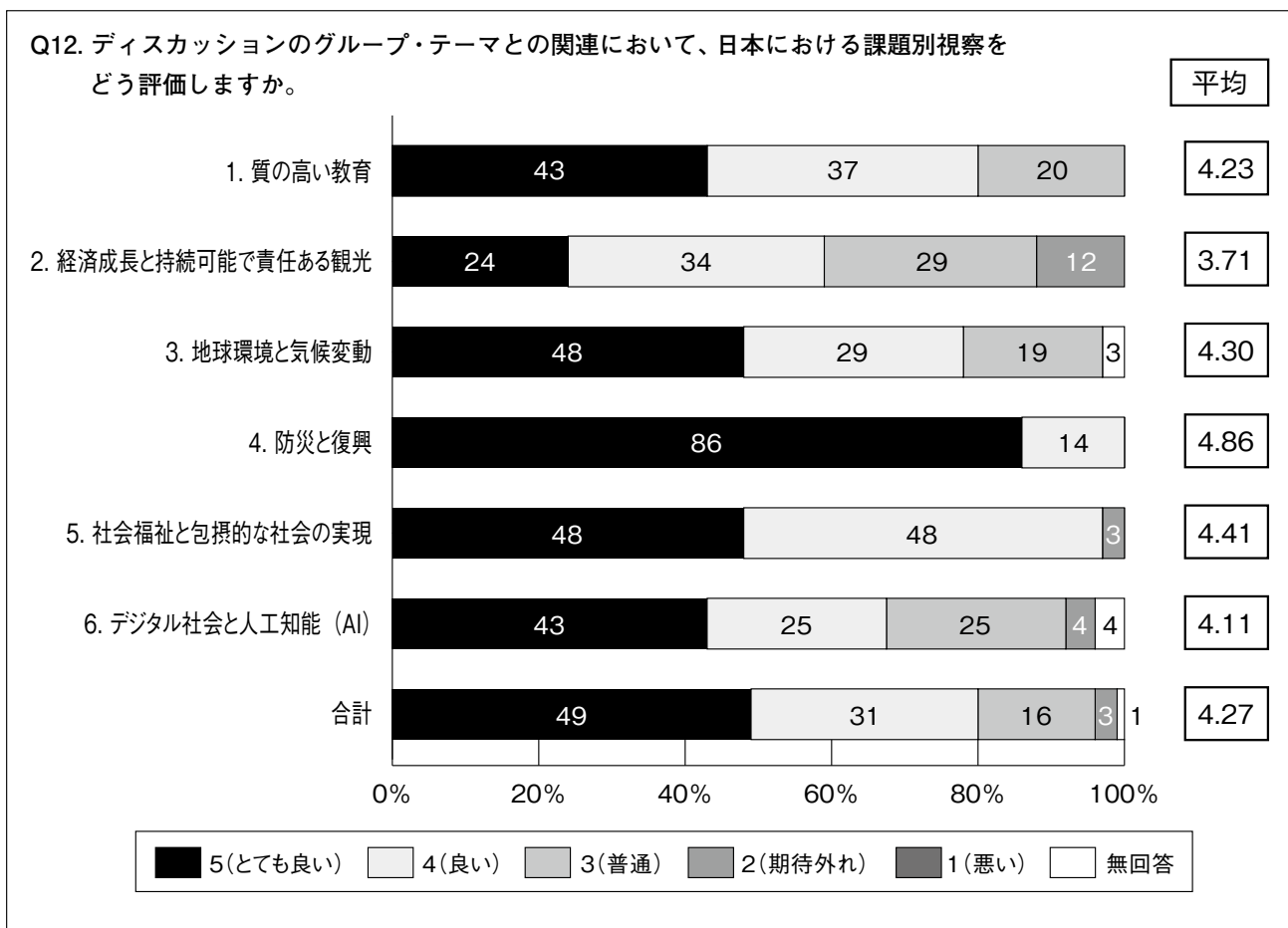
Q11. あなたはどれくらい積極的にディスカッション活動に参加しましたか。 *PYのみ



〔課題別視察（日本及びシンガポール）、関係機関等視察（タイ）〕

ディスカッションのグループ・テーマとの関連において、80%の参加者が日本における課題別視察を4以上（良い、とても良い）と評価し、77%の参加者がシンガポールにおける課題別視察を4以上と評価した。

また、タイにおけるSG別の関係機関等視察については、73%の参加者が4以上（良い、とても良い）と評価した。



DG1：筑波大学附属坂戸高等学校

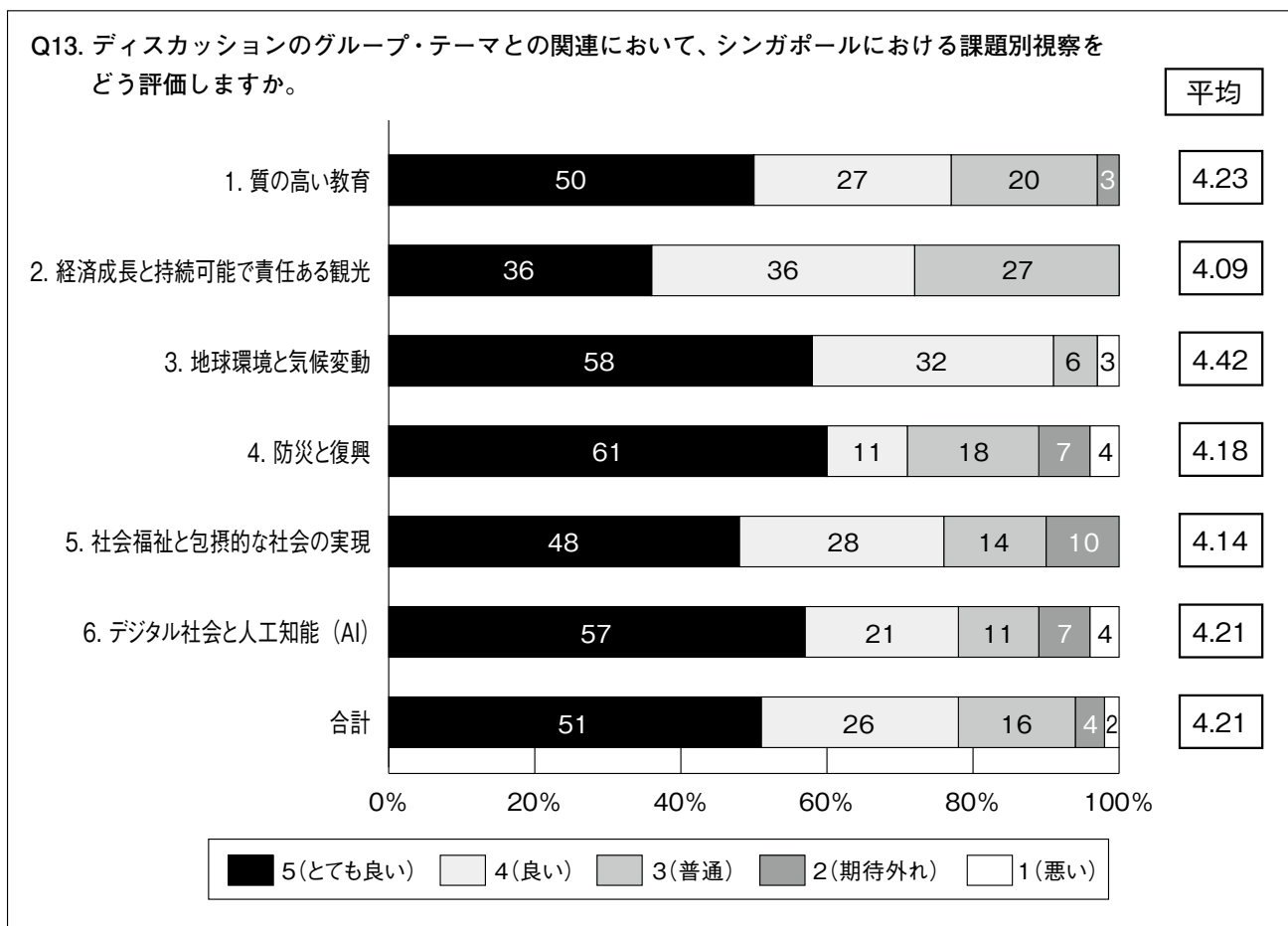
DG2：鎌倉市市民防災部観光課、株式会社public and co

DG3：公益財団法人東京都環境公社

DG4：首都圏外郭放水路

DG5：社会福祉法人江東園、江戸川区福祉部福祉推進課

DG6：SAP Japan



DG1: Impart Singapore (青少年支援団体)、国立図書館

DG2: セントーサ開発公社、マンダイ・ワイルドライフ・リザーブ、バードパラダイス

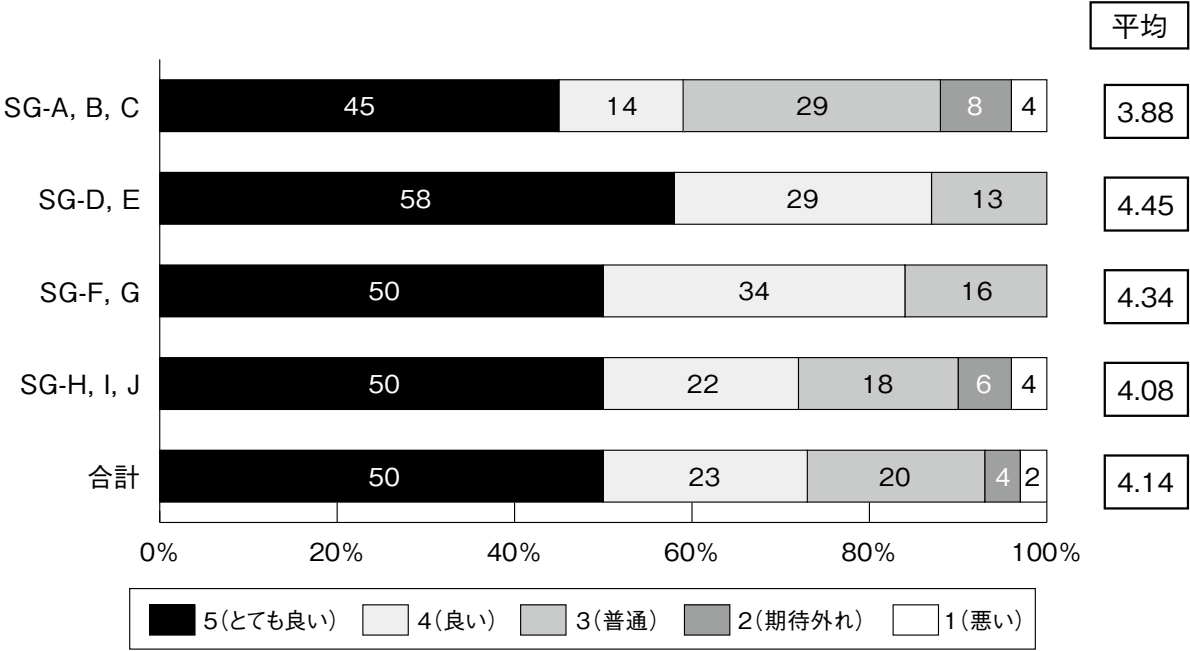
DG3: セムコープ・テンゲ・水上設置型太陽光発電所、ALBA E-Waste (廃棄物管理会社)

DG4: シンガポール民間防衛アカデミー、シンガポール赤十字社

DG5: イネーブリング・ビレッジ (障害者支援団体)、Skillseedレジリエンス・トレイル (地域共感学習プログラム)

DG6: AIシンガポール、シンガポール・サイエンスセンター

Q14. タイにおけるSG別の関係機関等視察をどう評価しますか。



SG-A,B,C：バンコク国立博物館、チュラロンコン大学政治学部
SG-D,E：ワット・アルン (暁の寺)、ラジャマンガラ工科大学プラナコーン校
SG-F,G：ワット・プラチュートゥポン、タイ王国国会
SG-H,I,J：王宮、社会開発・人間安全保障省

[ホームステイ]

全ての訪問国において、86～96%の参加者が4以上(とても満足、完全に満足)と評価した。

Q15. ホームステイはどうでしたか。 *PYのみ
(*1 シンガポールPYを除く、*2 タイPYを除く)

